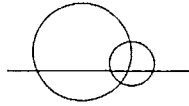


〔学習法 総括レポート〕



東亜同文書院について学んだこと

学習法の時間に学習した「東亜同文書院」について学んだこと、感じたことをまとめました。

東亜同文書院と創設者たち

* 東亜同文書院

東亜同文書院は、1901年（明治34年）東亜同文会によって中国の上海に創立された。中国・アジアで活躍できる有為の人材の育成を目的とし、戦前海外に設けられた日本の高等教育機関としては、最も古い歴史を持つ。中国・アジア重視の国際人を養成し、ここから日中関係に貢献する多くの人材が輩出された。

* 創設者たち

以下の3人は東亜同文書院の歴史を語る上で外せない方々である。

- ☆近衛篤磨 東亜会と同文会が合併して生まれた東亜同文会の初代理事長。
- ☆荒尾 精 当時中国人との直接貿易が難しかったため、荒尾は中国との貿易要員が必要と考え、中国の上海に日清貿易研究所を創設し、民間人の立場から大陸研究を指導した。日清貿易研究所は東亜同文書院の前身となった。
- ☆根津 一 日清貿易研究所の運営にあたった。また、東亜同文書院の初代

経済学部1年 山村友香

・第3代院長として学校運営にあたるだけでなく、教科「倫理」を自ら講義し書院を学問追求の場ではなく人間形成の場とし、日中間で活躍する人材の教育につとめた。



大旅行

1902年、外務省から根津一院長に対し、中国西北地方におけるロシア勢力の浸透状況についての調査が要請され、根津は第2期卒業生の5人を現地調査に派遣した。これを「西域大旅行」という。彼らの報告書に対し外務省から支払われた謝礼金を基金として、5期生以降は卒業論文のための中国調査旅行、すなわち「大旅行」が制度化されることとなった。学生たちは数名から5・6名のチームを組んで各地へ3ヶ月から半年までの旅行をし、その範囲は中国本土にとどまらず東南アジアにも及んだ。調査コースは中国国内の政治情勢に大きく左右され、始めの頃は安定しており比較的安全であった。しかし、辛亥革命などの様々な軍



事紛争、反日感情の塊などによって困難になったが、戦闘などによる犠牲者はいなかった。それは政府が執照（パスポート）を発行し、学生を保護したからである。大旅行は43期で終わるが、合計すると中国と東南アジアで約700コースにもなり、その調査テーマも商取引だけでなく教育、文化、歴史と様々なものが取り上げられた。調査結果は学生たちによって『大旅行誌』としてまとめられ、毎年出版されていた。そして、彼らが収集した地域情報をもとに1915年から1921年にかけて『支那省別全誌』全18巻が刊行された。当時の中国には実態報告がなかったため、戦前の前半期の中国を知る上でこの『支那省別全誌』は貴重な価値があると言える。

スパイ容疑

東亜同文書院は始めの頃は中国政府の多大な支持を得ていたが、日中戦争が泥沼化するにしたがって、しだいに中国側の反感を買いはじめるようになる。東亜同文書院が毎年行っていた大旅行調査で学生がカメラを持っていたことが、中国に対するスパイ行為ではないかと捉えられるようになったことが原因の一つである。東亜同文書院に対して「スパイ養成学校説」を言いふらいたのが（※）ハーバート・ノーマンである。ハーバート・ノーマンは自身の論文にこう書いた。

「荒尾は漢口で働いたのち、日本の清国侵出を押し進めるためのより野心的な事業を立案した。」日清貿易研究所の卒業生の「多くは日清戦争のあいだに密偵や官庁の通訳となり、あるいはいわゆる『支那浪人』の群に身を投じた。……その性格は不明であり、その機能を定義することも困難であるが、半世紀にわたって日本の陸軍、外務省ないし侵略主義団体のために芳しからぬ仕事を行ったことはたしかである。」

（ハーバート・ノーマン全集 2巻「日本政治の封建的背景 第5章福岡玄洋社 8 対外課報活

動）

東亜同文書院は「日中友好」、「中国アジアの理解」などを目指しており、「スパイ養成学校」ではなかったことは明らかである。

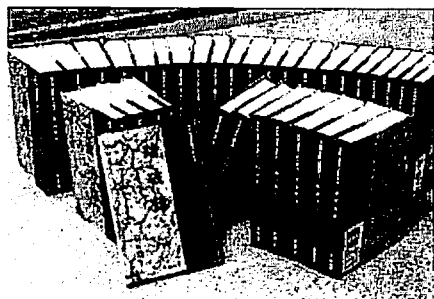
（※）ハーバート・ノーマンは第2次世界大戦後、アメリカからの要請によりカナダ外務省からGHQに出向し、連合軍占領下の日本の民主化に携わった人物である。

大旅行誌と安沢隆雄

*大旅行誌（『金聲玉振』）

東亜同文書院の学生は卒業前、数人単位で中国国内を旅行し、地域社会の実情を調べた。半世紀にわたるその調査報告書は33巻の『大旅行誌』にまとめられた。この貴重な資料の一つである20期生が書いた『金聲玉振』（大正12年7月発行）を学習法の時間に取り扱った。そこで『金聲玉振』、「長安の月を戀ひて」から読み取れることを紹介する。

大旅行は夏季に行われたということと、ほとんどの移動が徒歩であったということで、学生たちは疲労が溜まっていただろうが、その中で木陰に腰をおろし水などを飲んだりする休憩が旅行中の快楽であった。また、執照や荷物を調べられるようなこともあり、警察へ連れて行かれそうになったこともあった。危険な土匪から学生を守るために護兵をつけて旅をすることもあった。さらにどんな旅館に泊まり、どんな食事を摂ったのか、何時にどんなことをしたのかなども事細やかに書かれている。



*安沢隆雄



安沢隆雄さん

安沢氏は東亜同文書院の第25期生で、100歳を超えた現在も水墨画家として活躍している。安沢氏は調査旅行で雲南からビルマの方向へ進んだ。これは大変難しいコースで、後の日中戦争時にアメリカ軍がつくった援蒋ルートである。その後シンガポールへ向かう船で客に病人が出てみんな消毒のために足止めをくらった。旅行中は様々な人々に関心を持ち、細かく観察し、たくさんの絵を描いた。この絵は生々しい記録であるため大変参考になる。安沢氏は、恩師・先輩の墓参りには積極的に出かけ、かつ後輩の面倒には労を惜しまない、大変素晴らしい私たちの大先輩である。100歳を迎えた誕生日の後に愛知大学で講演した。

愛知大学と3人の学長

*愛知大学

1945年（昭和20年）太平洋戦争の終結に伴い、東亜同文書院は半世紀にわたる歴史の幕を閉じた。翌1946年（昭和21年）5月、最後の学長となった本間喜一ら13名の同校教職員が東京都下に参集し、書院生をはじめとする海外諸校からの引き揚げ学徒たちを収容する大学の新設を決意した。設立にあたって、従軍通訳などの軍部への協力やスパイ活動の疑いでGHQが東亜同文書院大学そのままの大学では許可できないと条件を付けたため、旧書院側は「新大学は東亜同文書院とは無関係」との声明を余儀なくされた。そして同年11月15日、愛知県豊橋市の地に愛知大学は創立された。設立時の学生・教職員の大半は東亜同文書院関係者で占められた。

*3人の学長

1946年、愛知大学設立はゼロからの出発だった。

創成期の3人の学長は寄付金集めに奔走した。

☆林 毅陸 元慶応義塾大学塾長であり、1936年より東亜同文会理事を務め、1946年愛知大学初代学長となった。

☆本間喜一 東亜同文書院の最後の学長であり、愛知大学第2・4代学長を務めた。東亜同文書院時代に日本の敗戦を見越し、その1年前から金の延べ棒や食糧などを用意して教職員・学生の戦後の生活に備え、1946年3月に団長として学生たちを引率して引き揚げた際には、書類の携帯が許されていなかったにもかかわらず、旧東亜同文書院大学の学生簿・成績簿を決死の覚悟で日本に持ち帰った。帰国後、引き上げ学生を収容するために本間が中心となって大学設立に尽力し、豊橋市長の協力などもあって準備期間わずか半年で愛知大学が誕生した。しかし戦時中に学生たちを戦場に送り出した責任を感じて、初代学長には就任しなかった。

☆小岩井淨 愛知大学第3代学長を務めた。大正～昭和期に社会運動家として活躍し、太平洋戦争突入後の1942年に東亜同文書院の講師となり、敗戦後愛知大学教授に設立と同時に就任し、1955年に学長に推された。

3代学長
小岩井 淨2・4代学長
本間喜一初代学長
林 毅陸



感想

私は学習法で東亜同文書院について学ぶまで、その存在自体知りませんでした。東亜同文書院について学んでいくうちに、東亜同文書院ができ愛知大学設立に至るまでに多くの人物が携わり、困難を乗り越えてきたとても伝統のある大学であるということがわかりました。中でも本間喜一は常に学生・教職員を第一に考えており、死を覚悟してまで学籍簿などを持ち帰ったことには感心しました。日本に帰って来てからも、愛知大学を設立するために自身が奔走し尽力したからこそ、現在の愛知大学が存在するわけで、その経緯を知るこ

とができてよかったです。大学記念館を見学した際は、本間が持ち帰った当時の学籍簿・成績簿や卒業証書などを自分の目で見るという貴重な体験もできました。

また、東亜同文書院時代の学生が行った大旅行は常に危険との隣り合わせであったが、日中友好や中国アジアの理解のために続けられたものであったにもかかわらず、スパイと疑われたのには納得がいかない気持ちでいっぱいになりました。

最後に、東亜同文書院について学んだことで今までの愛知大学の見方が変わり、素晴らしい伝統がある大学で4年間を過ごせることを光栄に思います。

【参考資料】

- ・藤田佳久 「東亜同文書院生が記録した近代中国」 あるむ
- ・愛知大学東亜同文書院大学記念センター編【愛知大学創成期の群像】
- ・愛知大学東亜同文書院大学記念センター・ニューズレター【研究報】創刊号 2007.1 Vol.1
- ・第12期生編【金聲玉振】「長安の月を戀ひて」
- ・東亜同文書院大学同窓会 滬友にゆーす <http://members2jcom.home.ne.jp/koyukai/>